

熊本県立天草青年の家 指定管理者 令和元年度(2019年度) 年度  
管理運営評価票

所管部課:教育庁市町村教育局社会教育課

I 施設の管理概要

指定管理者名	ひとつくりくまもとネット・三勢共同体
指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
施設概要	<p>① 所在：上天草市松島町合津5500番地</p> <p>② 施設：本館、講堂、宿泊棟、体育館、屋根付き運動場、キャンプ場等</p> <p>③ 目的：本施設は、健全な青少年の育成と県民の生涯学習の振興を目的として設置された県立の青少年教育施設である。宿泊施設及び各種の体験活動のための施設・設備を活用して、利用団体による自主的な研修利用のほかに、自然や季節の特徴を活かした教育的プログラムとして企画事業を実施している。自然の中での体験活動が中心であるため、特に利用者の安全確保に留意して運営している。</p>
指定管理料	302,932,000円（4施設合計、利用料金制）

II 管理運営の評価

1 管理業務の水準の評価

管理業務の水準を表す指標	目標値	実績値	備考
研修者延べ数	29,181人	39,095人	前年度実績43,172人
研修活動中の事故の有無	0件	0件	軽傷を除く

【点検・調査結果及び評価】

改修工事の影響で11月から3月まで休館していた影響で前年度実績からは研修者延べ数が減少したものの、休館を見込んでの事前調整により4月から10月までの利用者延べ数は約2,300人増であった。新規団体の利用も多く、今後の利用者増に期待できる。

県では、特に施設における利用者の安全確保を重視し、指定管理者への指導を徹底しており、期間中の事故発生は0であった。研修や安全マニュアル整備・更新等を通じた、安全確保の取組みを期待する。

## 2 管理業務実施状況

### ① 施設維持管理業務実績

作業項目	業務内容	実施回数	備考
清掃	所内清掃	通年	
保安・警備	宿直業務	通年	
	ボイラー運転監視	通年	
保守点検	電気設備保守点検	年12回	専門業者に委託
	エレベーター設備点検	年12回	同上
	消防設備保守点検	年2回	同上
	地下タンク保守点検	年1回	同上
	ボイラー保守点検	年2回	同上
	監視カメラ保守点検	月1回	同上
	空気環境測定	年6回	
	害虫駆除	年2回	専門業者に委託
	高架水槽清掃	年1回	同上
	簡易専用水道検査	年1回	同上
	水質検査（残留塩素）	週1回	
	浄化槽保守点検	年24回	専門業者に委託
	浄化槽清掃	年2回	同上
	浄化槽法定検査	年1回	同上
	し尿汲み取り	年1回	同上
吸収式冷温水器点検	年3回	同上	
建築設備定期点検	年1回		
<p><b>【点検・調査結果及び評価】</b>            施設設備の清掃、保安・警備および点検等については仕様書どおりに実施されている。頻度・内容ともに水準を満たしており、良好に管理されている。</p>			

### ② 運営事業実績

#### 【主な事業・イベント】

事業・イベント名	開催時期	参加者数	趣旨・内容
ファミリーキャンプ in あませい	4/27~28	66人	天草ならではの自然体験活動を通して、自然への興味関心を高めるとともに、家族の絆を深め、他の参加家族とも交流を図る。
あませい楽校（全8回）	6~3月	135人	地域の子どもたちに年間を通して、体験活動の機会を設け、地域の魅力に気づき、地域を誇りに思う子供たちを育成する。さらには、各活動を通して天草の将来を担う子供を育成する。
「恐竜の島」御所浦で夏の大冒険！～Sea サマーキャンプ2019～	7/24~26	40人	(1) 熊本地震の被害が大きかった地域の子供たちに、海を舞台とした体験活動を提供することで、心身のリフレッシュを図る。 (2) 同地域の子供たちが寝食を共にすることで、友達との絆を深める機会とする。

4所合同企画 長期自然体験事業『あま くさ無人島キャンプ』	8/4~11	24人	天草の海や山に囲まれた大自然の中での共同 生活を通して、仲間と協働するための「思いや りの心」や「工夫する力」を身につけるととも に人間としての強さやたくましさを育む。
マリントラベラー～広がれ友達の WA! ～	9/1	14人	天草の大自然の中での活動をとおして、同世代 の仲間との交流を深め、リフレッシュするとと もに、今後の活力を生み出す。
明日にきらめけ！チャレンジ元気ッ ズ！	9/14~16	38人	自然体験活動を通して、外遊びの楽しさについ て理解を深めてもらう。また、子どもたちの創 造力やコミュニケーション能力を育む。
“みんなのあませい” グラウンドゴル フ大会	10/18	169人	グラウンドゴルフをとおして、地域における生 涯スポーツの推進を図るとともに、地域住民の 交流を深める。
“みんなのあませい” 秋の祭典	10/20	345人	天草青年の家を地域の方々に開放し、さまざま な体験活動に参加してもらうことで、天草青年 の家の活動に対する理解を深めてもらい、地域 に根ざした施設として発展させることを目的 とする。
『電車でGO!』	11/2~11/4	19人	電車の路線がない天草地域に住む子どもたち が電車の利用方法を習得し、様々な場所に行 き、他の地域の特性を学ぶ。また、活動を通し て、多くの人たちと関わることによって、コミ ュニケーション能力や社会性を培い、子どもた ちの生きる力を育てる。
あませい通学合宿（全3回）	11~2月	46人	子どもたちは共同生活を通して自立心を育む とともに、親にとっては子離れを体験し、家庭 教育を見直す機会とする。
“ほっ”とする場所アマサー（全3 回）	12~2月	34人	天草青年の家を拠点としてさまざまな体験の 場を設け、地域の中高年の方々を対象に生きが いづくりを行う。さらに地域の人材や資源を活 用し、地域社会の活性化を目指す。
第9回あませいトレイルラン大会	1/18	32人	青年の家周辺の自然に親しみながら、千元の森 や、千歳山を爽快に駆け抜け、トレイルランの 醍醐味を味わう。また、県民の生涯学習スポー ツの推進を図る。

#### 【点検・調査結果及び評価】

地域の自然等の特色を活かしたプログラムを継続して実施するとともに、昨年度の評価が高かった「電車でGO!」を実施。今年度は定員の1.5倍の応募があった。公共交通機関の利用や、様々な地域の子供たちの共同生活など、現代の子供たちにとっての課題やニーズに応じた体験活動として、教育的効果が高く、体験活動の普及・啓発に寄与しており、今後も継続して実施することを期待する。

通学合宿については、参加対象地域を広げて実施しているものの、新しい地域からの参加が少なかったため、次回以降の実施につなげてほしい。

### 3 利用状況

施設名	年計	年計	前年度計	前年度比
本館	開館日数	326 日	358 日	91.1%
	宿泊可能日数	223 日	355 日	62.8%
	利用日数	259 日	308 日	84.1%
	利用率	79.4%	86.0%	84.1%
	利用者実数	14,098 人	15,390 人	91.6%
	利用者延べ数	29,086 人	31,024 人	93.8%
キャンプ場	開館日数	326 日	358 日	91.1%
	宿泊可能日数	320 日	355 日	90.1%
	利用日数	22 日	9 日	244.4%
	利用率	6.7%	2.5%	268.0%
	利用者実数	229 人	133 人	172.2%
	利用者延べ数	759 人	343 人	221.3%
出前講座等	利用者実数	9,250 人	11,805 人	78.3%
<b>【点検・調査結果及び評価】</b> 1 1 月から 3 月まで改修工事の影響で休館していたことが影響して、利用者延べ数が減少した。出前講座の利用者も前年に引き続き減少することとなった。令和 2 年度も改修工事の影響で休館期間があるが、出前講座利用増に向けて令和元年度の反省を踏まえて取り組んでもらいたい。				

### 4 管理経費の収支状況

① 収入			
項目		内訳	金額 (円)
利用料金収入	本館	一般 3,252 人、高校生以下 11,154 人、就学前の者 114 人	5,113,680
	キャンプ場	一般 47 人、高校生以下 283 人、就学前の者 1 人	42,870
	宿泊を伴わない利用	一般 2,845 人、高校生以下 907 人、就学前の者 281 人	329,850
指定管理料		指定管理者による本施設への振り分け	77,524,000
企画事業等収入		16 事業	2,026,155
その他活動収入		出前講座 53 団体	151,050
プログラム活動料金			375,200
食事代			25,003,810
シーツ等クリーニング代			1,270,420
雑収入			490,486
合計			112,327,521
		収入未済額	0
		うち利用料金収入分	—

② 支出		
項目	内訳	金額 (円)
人件費		62,977,144
運営管理費	旅費、管理費、活動プログラム費等	13,218,202
維持管理費	光熱水費、業務委託費、施設修繕費	36,876,348
企画事業費		1,816,477
合計		114,888,171
<b>【点検・調査結果及び評価】</b> 利用料金収入については適正に収納され、指定管理料と併せて修繕を含む施設管理運営に必要な経費に適切に使用されている。		

## 5 利用者調査結果

調査実施内容	調査年月日	平成31年4月1日～令和2年3月31日											
	調査方法	全ての利用者団体にアンケート調査を実施											
	調査対象数	322団体											
調査結果	調査分野	回答内容											
		非常によい		よい		普通		あまりよくない		悪い		無回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
	集団生活を学ぶ場	268	83.2	47	14.6	7	2.2	0	0	0	0	0	0
	活動内容	125	38.8	34	10.6	12	3.7	0	0	1	0.3	150	46.6
	職員の受入れ対応	268	83.2	36	11.2	11	3.4	1	0.3	1	0.3	5	1.6
	職員の指導・助言	197	61.2	36	11.2	17	5.3	0	0	0	0	72	22.4
	食堂スタッフの対応	126	39.1	33	10.2	7	2.2	1	0.3	0	0	155	48.1
	食事の質	107	33.2	42	13.0	15	4.7	1	0.3	0	0	157	48.8
	食事の量	107	33.2	42	13.0	15	4.7	1	0.3	0	0	157	48.8
	屋内の施設・環境	152	47.2	73	22.7	26	8.1	7	2.2	0	0	64	19.9
	屋外の施設・環境	182	56.5	55	17.1	22	6.8	2	0.6	0	0	61	18.9
	また利用したいか	ぜひ				機会があれば				利用しない		無回答	
	275	85.4			45	14.0			0	0	2	0.6	
利用者からの意見等	特になし												
<b>【点検・調査結果及び評価】</b> 前年度に比べ、「非常によい」の評価が3～10%増加している。自由記述欄においても概ね良好な意見をいただいている。 令和1、2年度にかけて施設の改修工事があるので、屋内外の環境整備を進めてほしい。													

## 6 意見・苦情等の対応

利用者からの意見・苦情等	改善状況
特記事項なし	
【点検・調査結果及び評価】	

## 7 昨年度の評価で、改善を指摘された事項に対する対応

指摘事項	改善内容・結果
出前講座の利用者数の減少	市内学校での広報活動を実施やリピーター団体への継続的なプログラムの提案を行い団体数に関しては平成 30 年度の 46 団体から 53 団体に増加した。今後も利用者数獲得に向けて改善していく。
キャンプ場利用者増に向けた取り組み	屋根付きグラウンドでの雨天時の利用促進や、企画事業にキャンプ活動を取り入れキャンプの良さを伝えていったことで利用者数が前年度の 343 人から 759 人に増加。
【点検・調査結果及び評価】 出前講座の利用者数獲得に向けては引き続き取り組んでいく必要がある。キャンプ場利用については昨年度比で 221.3%となった。次年度以降も引き続き広報に努め利用者獲得につなげてほしい。	

## 8 その他

アンケートの自由記述欄にも現場・共同体事務局スタッフ全員が目を通し、利用者のニーズを汲み取り、サービスレベルの向上を図っていただきたい。